



# 2019年度（2020年2月期）第1四半期 （2019.3.1～2019.5.31）決算説明会



**イオンモール株式会社**  
(東証1部:8905)

2019年7月4日



## 2019年度第1四半期 決算説明会

### 国際財務報告基準「リース」について (IFRS第16号)

IFRS第16号の概要	P 3	<b>今後の取り組み</b>	
2019年度財務諸表への影響	P 4	海外事業 成長モデル	P 21
<b>2019年度第1四半期 決算概要</b>		海外事業 既存モールリニューアル	P 22
連結業績概要	P 6	国内事業 既存モール活性化	P 23
セグメント別 営業利益	P 7	国内事業 消費税増税への対応	P 24
海外 業績推移	P 8	国内事業 インバウンドマーケットへの対応	P 25-26
海外 既存モール専門店売上前期比	P 9	国内事業 デジタル化の推進	P 27
海外 2019年度既存モールリニューアル	P 10	国内事業 地域コミュニティ機能の強化	P 28
海外 新たな需要創出に向けた取り組み	P 11	<b>2019年度連結数値計画</b>	
日本 既存79モール専門店売上前期比	P 12-14	国際財務報告基準IFRSの最新基準 IFRS第16号適用の影響	P 30
日本 モール事業 2019年度既存モールリニューアル	P 15-16	連結業績計画	P 31
損益計算書 (要約)	P 17	株主還元	P 32
貸借対照表 (要約)	P 18	<b>ESG経営への取り組み</b>	P 33
キャッシュ・フロー計算書 (要約)	P 19	<b>添付資料</b>	P 35-39

当連結会計年度より、国際財務報告基準 (IFRS) に準拠した財務諸表を連結している在外子会社において、**IFRS第16号「リース」** (以下、**IFRS第16号**という) を適用しています。**2019年度計画値および実績値は、適用後数値で表示しており、遡及適用はしないため、前期比は同基準適用前の実績値との比較で表示しています。**

# 国際財務報告基準「リース」について (IFRS第16号)

## IFRS第16号の概要

### 1. 新リース会計基準（IFRS第16号）の適用

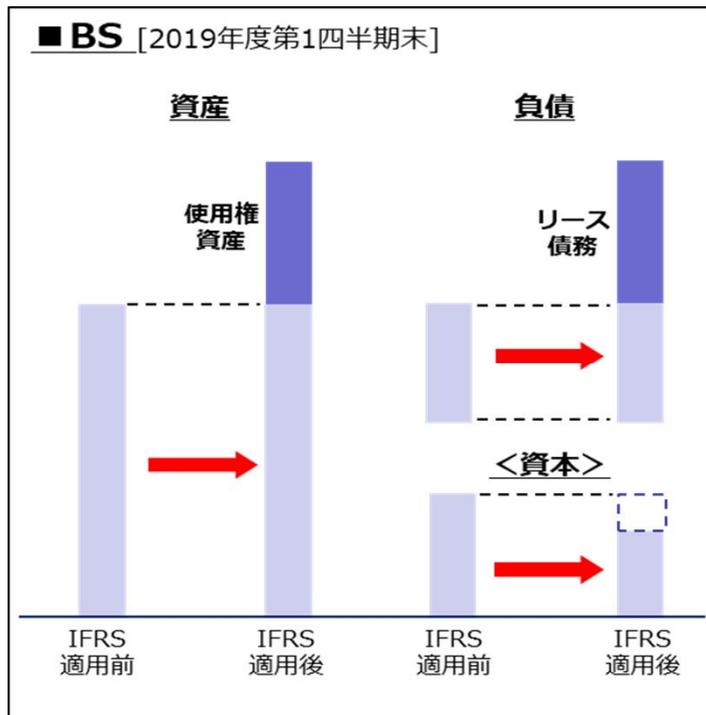
- ・2019年1月にIFRS（国際財務報告基準）において、新リース会計基準（IFRS第16号）がスタート。
- ・法的には賃貸借取引、会計上はリース取引を資金調達を伴う資産の取得として処理。
- ・当社グループでは、2019年度（2020年2月期）第1四半期（2019年3月1日）より、海外連結子会社適用。

### 2. IFRS第16号「リース」の概要（財務諸表への影響）

従来基準			新基準		
BS	PL	CF	BS	PL	CF
オフバランス	リース（賃借）料	営業CF	オンバランス	減価償却費 支払利息	営業CF 財務CF

- ①新リース会計基準適用日に、海外連結子会社の原則すべてのリースについて、資産および負債を認識し、BSに使用権資産とリース負債を計上。
- ②リース期間中の使用権資産にかかる減価償却費（定額）と、リース負債にかかる利息費用をPLに計上。  
従来のリース（賃借）料は計上しない。
- ③会計処理の変更により、キャッシュ・フローの表示区分が変更。

2019年度財務諸表への影響



海外連結子会社のリースについて資産および負債に計上。

<資産>

使用権資産	+	1,314億円
IFRS第16号影響額	+	932億円
「投資その他の資産」から科目変更	+	381億円

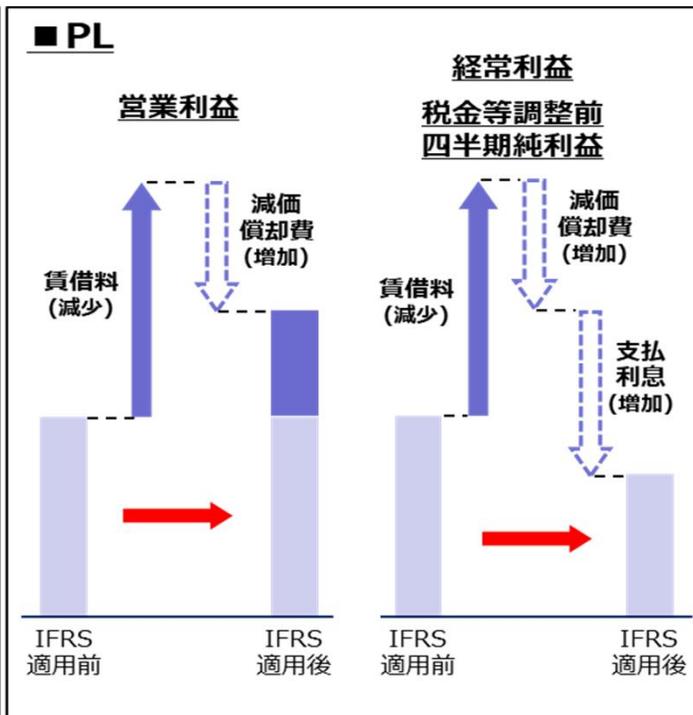
<負債>

リース債務	+	1,194億円
-------	---	---------

<資本>

利益剰余金(移行時)	▲	129億円
------------	---	-------

総資産、負債は増加するが、  
キャッシュ・フローの増減はない。

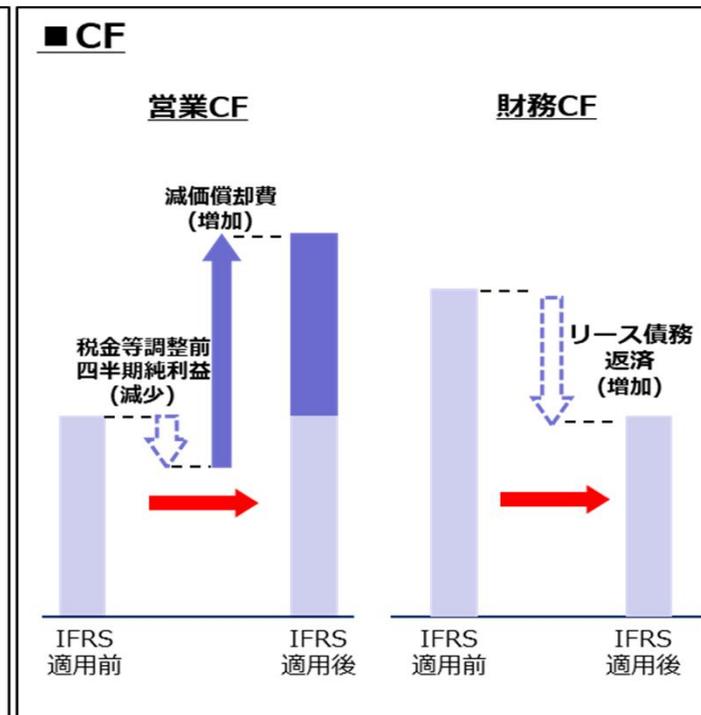


従来の賃借料と新たに発生する減価償却費との差額が、営業原価、販売費及び一般管理費の減少となることから、営業利益は増加。リース債務にかかる支払利息を計上することから経常利益は減少。

【2019年度1Q影響額】

賃借料(減少)	+	44億円
減価償却費(増加)	▲	31億円
営業利益	+	13億円
支払利息(増加)	▲	16億円
経常利益	▲	2億円
税金等調整前 四半期純利益	▲	2億円

営業利益は増加するが、  
経常利益は減少となる。



従来の賃借料処理がリース債務の返済処理となるため、営業活動によるキャッシュ・フローは増加、財務活動によるキャッシュ・フローは減少。

【2019年度1Q影響額】

<営業CF>	
税金等調整前四半期純利益	▲2億円
減価償却費	31億円
計	28億円
<財務CF>	
リース債務の返済	▲25億円
<現金及び同等物に係る換算差額>	2億円
<現金及び現金同等物の四半期末残高>	-億円

キャッシュ・フローの増減は  
変化ないが、計上区分が変更となる。

# 2019年度第1四半期 決算概要

## 連結業績概要

営業収益、各利益とも過去最高を更新し、増収増益を達成

(参考)

(単位：百万円、%)

	2019年度 1Q実績	2018年度 1Q実績	前期比		2019年度 上期計画	計画比	IFRS16号影響		
			増減	%			影響額	影響額控除後	前期比
営業収益	80,690	76,759	+3,931	105.1	159,000	50.7	-	80,690	105.1
営業原価	58,996	57,422	+1,574	102.7	-	-	▲1,331	60,327	105.1
営業総利益	21,693	19,336	+2,357	112.2	-	-	+1,331	20,362	105.3
販管費	6,555	6,682	▲126	98.1	-	-	▲4	6,560	98.2
営業利益	15,137	12,654	+2,483	119.6	29,000	52.2	+1,335	13,802	109.1
経常利益	12,862	12,233	+628	105.1	24,500	52.5	▲294	13,156	107.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,991	7,897	+93	101.2	15,700	50.9			
1株当たり 四半期純利益(円)	35.13	34.72	-	-	69.01	-			

総資産	1,330,058
自己資本	378,415
EBITDA	29,389

自己資本比率(%)	28.5
D/Eレシオ(倍)	1.7
ネットD/Eレシオ(倍) ※1	1.5

[参考]

自己資本比率(%) ※2	31.7
D/Eレシオ(倍) ※2	1.3
ネットD/Eレシオ(倍) ※2	1.2

※1 ネットD/Eレシオ=(有利子負債-現預金)/自己資本

※2 IFRS第16号適用の影響を控除

	オープン数 ※1	店舗数 (2019年5月31日現在)
日本	0	153 ※2
中国	0	19
カンボジア	0	2
ベトナム	0	4
インドネシア	0	2
モール計	0	180
都市型ショッピングセンター(OPA)	0	23

※1 2019年3月1日から2019年5月31日までにオープンしたモール数。

※2 イオンリテール(株)の大型商業施設70の管理・運営業務受託を含む。

## セグメント別営業利益

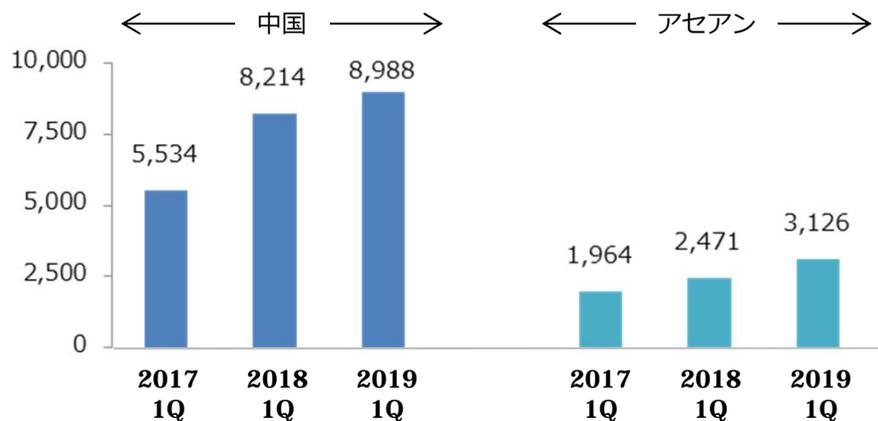
(単位：億円)

		1Q実績			IFRS第16号影響		
			前期実績	前期差	影響額	1Q実績	前期差
国内	モール	130	125	+5	-	130	+5
	都市型SC	▲2	▲1	▲0	-	▲2	▲0
海外	中国	15	0	+15	+12	3	+3
	アセアン	7	2	+4	+1	5	+3
合計		151	126	+24	+13	138	+11

		1Q実績 (累計)	評価	
国内	モール	130	◎	堅調な専門店売上動向(既存前期比102.5%)に加え、営業原価、販管費のコスト改善が進み、計画超過。
	都市型SC	▲2	△	前期に引き続き、上半期は活性化を継続して実施し、利益改善は下期となるが、前期の活性化効果により、専門店売上は103.8%と前期をクリア。
海外	中国	15	◎	活性化効果もあり、既存17モールの専門店売上は2桁水準の伸び率を継続。売上に比例し、営業収益、営業利益が伸長し、IFRS第16号適用前で黒字達成。
	アセアン	7	◎	アセアン3国とも黒字化し、計画を超過達成。売上トレンドは好調を継続。
合計		151	◎	海外は中国、アセアンともに黒字。国内も都市型SCのマイナス分をモール事業でカバー。計画を超過し、好調に推移。

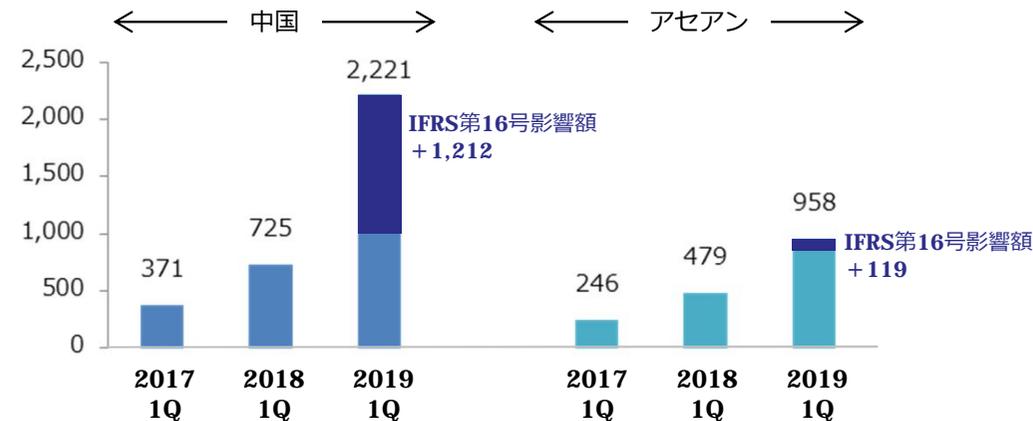
- 中国、アセアンともに**営業利益黒字化（IFRS第16号影響を除いても黒字化）**を達成。
- 利益改善額は**+20億円（中国+15億円、アセアン+4億円）**。
- ※IFRS第16号影響控除後では+6億円（中国+3億円、アセアン+3億円）
- 営業キャッシュ・フローは70億円。**

### 営業収益

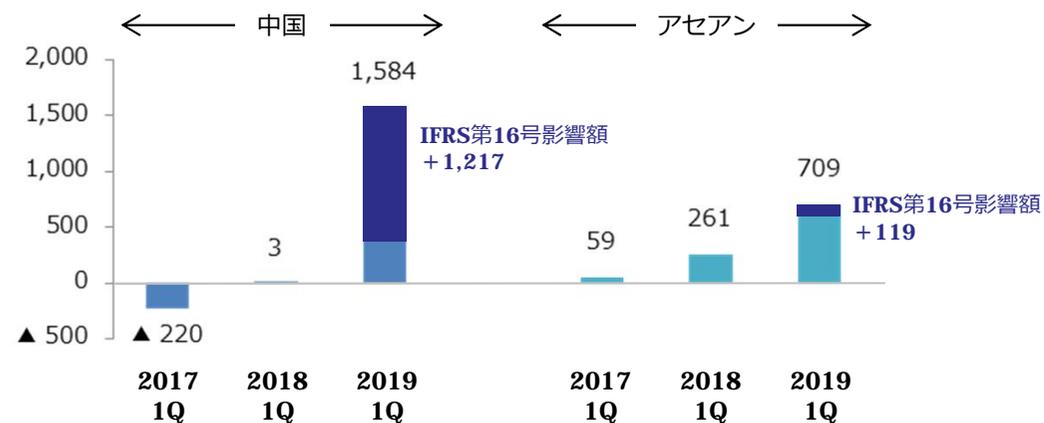


### 営業総利益

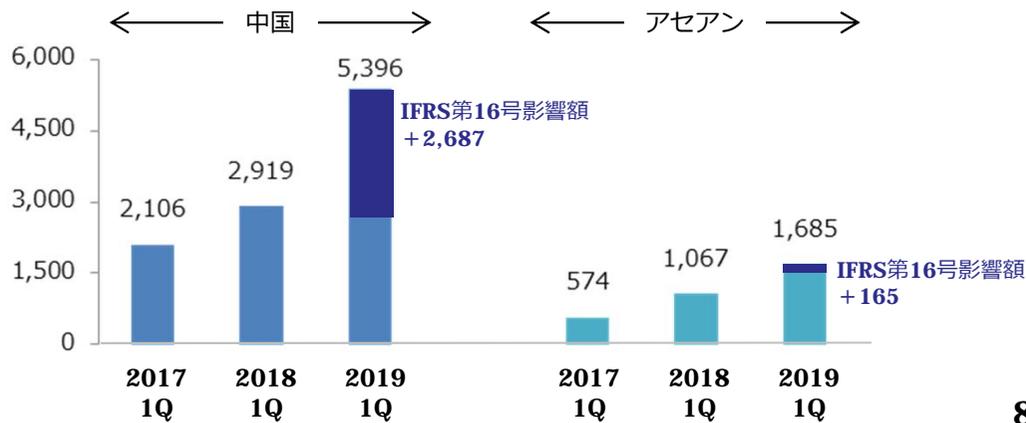
単位：百万円



### 営業利益



### 簡易営業CF



中国は、マクロ経済成長率は鈍化してきたものの、当社モールでは、日本で培ったオペレーション・ノウハウや日本同等のモール環境、計画的なリニューアルの実施により、**既存モールの専門店売上前期比は2桁水準の伸び率を維持。国全体のマクロトレンドを上回る成長を持続させることが可能。**

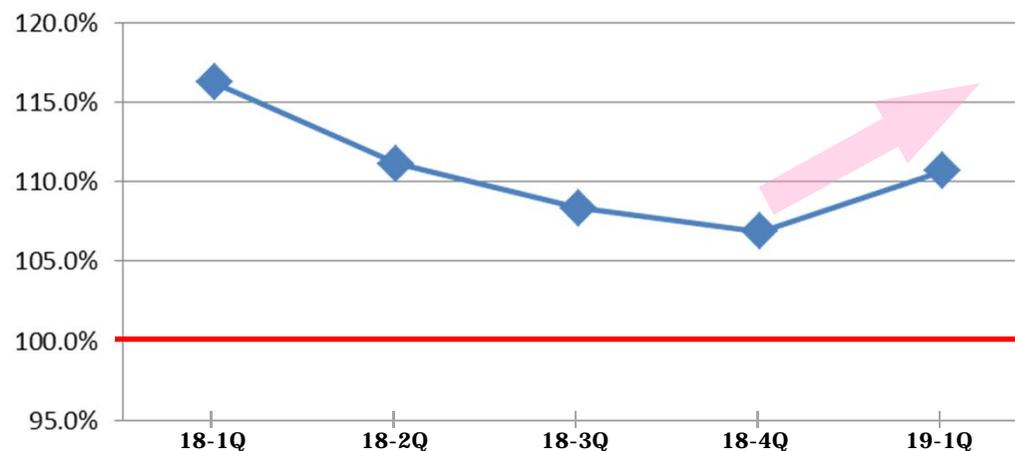
※海外現地法人の決算期末は12月末。

### 海外 2019年度既存モール前期比

#### 中国 既存モール専門店売上前期比伸び率推移

	中国			
	1-3月 (累計)	4月	5月	6月
専門店売上	<b>110.7%</b>	<b>102.9%</b>	<b>114.3%</b>	<b>114.8%</b>
来店客数	<b>103.5%</b>	<b>97.2%</b>	<b>106.6%</b>	<b>107.0%</b>

※6月度は速報値を記載しているため、4-6月3ヶ月間(累計)の前期比は記載しておりません。

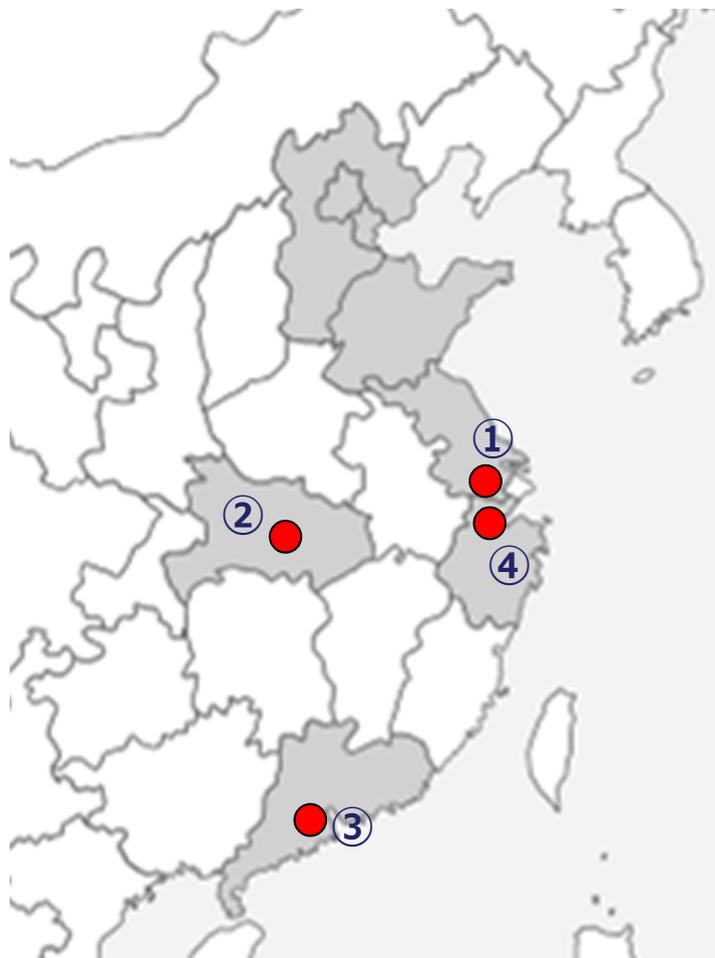


	ベトナム				カンボジア			
	1-3月 (累計)	4月	5月	6月	1-3月 (累計)	4月	5月	6月
専門店売上	<b>107.1%</b>	<b>104.8%</b>	<b>116.9%</b>	<b>118.1%</b>	<b>94.3%</b>	<b>96.7%</b>	<b>99.0%</b>	<b>116.0%</b>
来店客数	<b>103.5%</b>	<b>100.6%</b>	<b>102.5%</b>	<b>105.6%</b>	<b>68.1%</b>	<b>72.5%</b>	<b>62.9%</b>	<b>84.3%</b>

※6月度は速報値を記載しているため、4-6月3ヶ月間(累計)の前期比は記載しておりません。

※インドネシアは、現地の商慣習上、売上報告がない専門店が多く記載しておりません

- ①開業後3年以上経過のモールが70%を占め、安定成長のサイクルへと突入。
  - ②開業後3～4年のモールが多くなり、契約満了に伴うテナント入替中心の活性化及び賃料改定を順次実施。
- 来期以降も活性化効果による安定成長が見込める。



### ①イオンモール蘇州新区 2019年4月30日リニューアルオープン



計112店舗をリニューアル  
新規専門店35店舗

### ②イオンモール武漢經開 2019年5月1日リニューアルオープン



計101店舗をリニューアル  
新規専門店78店舗

### ③イオンモール広州番禺広場 2019年5月1日リニューアルオープン



計47店舗をリニューアル  
新規専門店33店舗

### ④イオンモール杭州良渚新城 2019年5月24日リニューアルオープン



計46店舗をリニューアル  
新規専門店23店舗

※海外連結子会社の決算期は12月末のため、当第1四半期連結会計期間には在外連結子会社の3月度から5月度までの第1四半期3ヶ月間の実績を計上。

## ■ 社会行事に対応したセールの実施

### < 3月8日 国際婦人デー（妇女节） >

新たな需要創出に向けた取り組みとして、女性向けのセール・景品配布・抽選会の実施や、女性に人気の芸能人によるイベントなどを開催。専門店売上は**HBC**関連を中心に好調で、既存同日比+**20%**超と伸長。



AEON MALL



イオンモール蘇州吳中



イオンモール佛山大瀝

日本 既存79モール専門店売上前期比

当社モールはハレ型施設であるため、GW大型連休期間でのレジャー・帰省利用につながり、期間中の専門店売上は+16%と伸長し、5月は+5.3%と好調に推移。活性化に伴う営業機会ロス影響をオフセットし、第1四半期累計は+2.5%で着地。



イオンモール沖縄ライカム



イオンモール倉敷



イオンモール徳島

専門店売上	2018年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
曜日調整前	100.1%	101.5%	101.9%	102.3%	101.5%
土日祝数	±0	▲1	±0	+1	±0
曜日調整後	100.1%	102.5%	101.9%	101.5%	101.5%

レジ客昨対 ※	99.7%	101.7%	102.3%	102.4%	101.6%
客単価昨対 ※	100.5%	99.8%	99.7%	99.9%	100.0%
駐車台数	99.9%	100.5%	100.4%	100.8%	100.4%
来店客数	98.7%	99.5%	100.6%	101.6%	100.0%

※GMS等、アンカーテナントの数値は含んでおりません。

専門店売上	2019年度			
	3月	4月	5月	1Q
曜日調整前	101.9%	100.4%	105.3%	102.5%
土日祝数	+1	±0	+2	+3
曜日調整後	99.4%	100.4%	100.3%	100.0%

レジ客昨対 ※	100.1%	98.8%	106.1%	101.6%
客単価昨対 ※	101.8%	101.6%	99.3%	100.9%
駐車台数	101.1%	100.0%	101.0%	100.7%
来店客数	101.3%	98.8%	103.0%	101.1%

日本 既存79モール専門店売上前期比（業界比較）

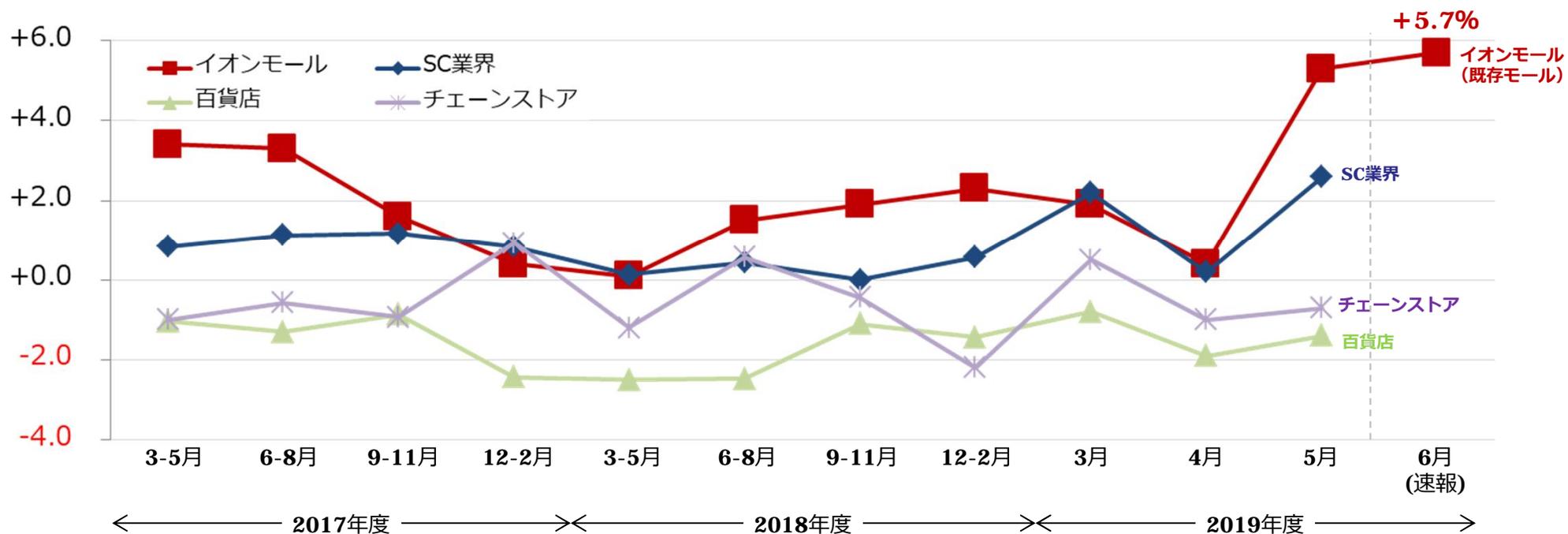
国内においては、**商業施設の淘汰が進む**中で、優勝劣敗が進展。  
 対Eコマースよりも、**リアル間の競争において勝ち残ることが先決。**

◆売上高前年対比（イオンモール、SC業界、百貨店、チェーンストア）

※SC業界、百貨店、チェーンストアの2017年度および2018年度の3ヶ月平均値は、各月の単純平均で算出。

※イオンモールの前期比は曜日調整前。

※百貨店は、インバウンド影響を除く。



出典：(社)日本ショッピングセンター協会、日本百貨店協会、日本チェーンストア協会

## 日本 既存79モール専門店売上前期比（業種別）

3月および4月は天候不順の影響から衣料品が前期割れと苦戦するが、5月はシネマが前期比+24.7%と好調に推移し、雑貨、食品、飲食などへ買い回り効果が波及し、すべての業種で前期超え。

	2018年度		
	上期	下期	通期
専門店合計	100.8%	102.1%	101.5%
大型専門店小計	103.1%	105.2%	104.2%
衣料品	98.1%	98.5%	98.3%
服装品	98.4%	98.5%	98.5%
雑貨	106.0%	103.7%	104.8%
ホビー	101.9%	100.8%	101.4%
食品	103.9%	104.7%	104.3%
飲食	101.7%	101.6%	101.6%
アミューズメント	96.9%	116.5%	105.2%
（内、シネマ）	91.8%	130.2%	105.6%
サービス	101.9%	106.2%	103.9%
中小専門店小計	100.5%	101.7%	101.1%

2019年度			
3月	4月	5月	1Q
101.9%	100.4%	105.3%	102.5%
105.3%	103.0%	103.7%	105.5%
98.9%	99.1%	102.6%	100.1%
99.5%	96.4%	100.9%	98.9%
103.2%	101.5%	108.5%	104.3%
102.6%	100.4%	102.9%	102.0%
103.5%	104.5%	104.5%	104.1%
99.7%	99.5%	105.7%	101.5%
100.2%	100.2%	119.0%	105.8%
94.6%	95.6%	124.7%	103.1%
108.4%	104.6%	104.3%	105.8%
101.3%	99.9%	104.7%	101.9%

【圧倒的な地域No.1モールへの進化】

## 日本 モール事業 2019年度既存モールリニューアル

### イオンモール東浦

2019年4月19日

増床リニューアルオープン

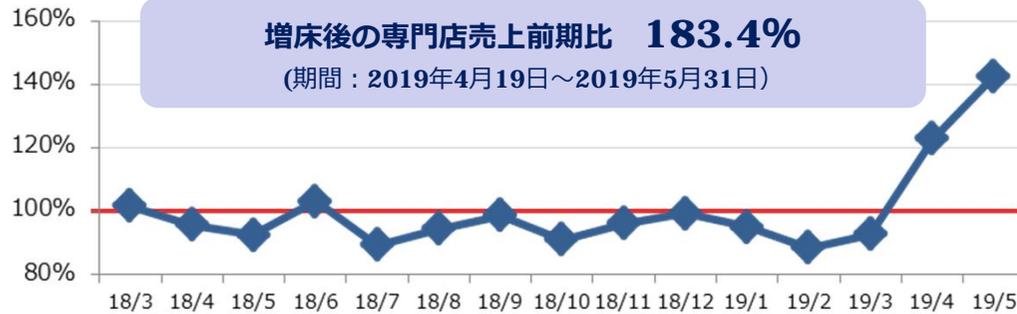
オープン：2001年7月

敷地面積：140,000㎡

総賃貸面積：75,000㎡ (+12,000㎡)

駐車台数：4,600台

専門店数：170店舗 (+50店舗)



### エリア最大級のキッズ・ベビーゾーンを形成



キッズ・ベビー専門店の拡充に加え、館内・中庭にキッズスペースを配置。

### 飲食ゾーンの面積を約1.8倍に大幅拡大



レストラン街14店舗と1,000席のフードコートを増床棟に移設。

### イオンモール名取

2019年4月19日

増床リニューアルオープン

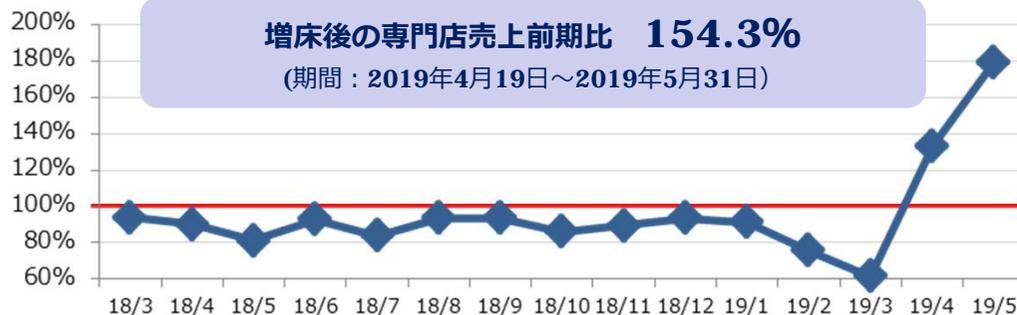
オープン：2007年2月

敷地面積：158,000㎡

総賃貸面積：80,000㎡ (+13,000㎡)

駐車台数：4,500台

専門店数：240店舗 (+50店舗)



### お客さまの快適性、利便性を向上



増床棟2Fを鉄道駅と屋根付デッキで直結。フードコートやトイレの混雑状況がわかるタッチ式フロアパネルを設置。

### 地域とのコラボレーションを強化 (地域インフラ機能の強化)



子育て支援施設や地域連携交流拠点を設置し、地域との連携を強化。

【圧倒的な地域No.1モールへの進化】

## 日本 モール事業 2019年度既存モールリニューアル

### イオンモール沖縄ライカム

2019年4月26日

増床リニューアルオープン

オープン：2015年4月

敷地面積：175,000㎡

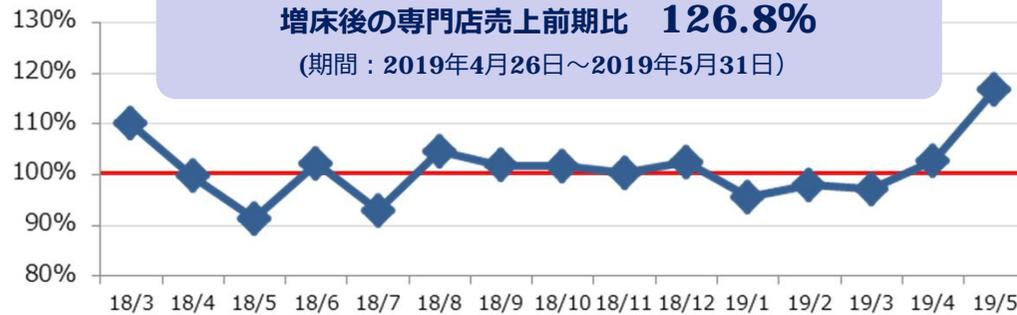
総賃貸面積：86,000㎡ (+8,000㎡)

駐車台数：4,000台

専門店数：240店舗 (+10店舗)



ピロティ駐車場  
店舗化部分



#### ファストファッションやライフスタイル提案型専門店



増床エリアにファッション、雑貨、書店、カフェなどのライフスタイル型専門店を集積。

#### デジタルの取り組みを強化



屏風型のデジタル画面には、沖縄の景色や自然をデジタルアートで演出。フードコートやトイレの満空状況のわかるタッチパネル式フロアマップを設置。

ゴールデンウィークの大型連休前に先駆けて増床・リニューアルモールをオープンした効果もあり、前期及び当期にリニューアルを実施した既存19モールの専門店売上は **前期比+7.4%**

モール名称	所在地	リニューアル日	専門店数	リニューアル専門店数
イオンモールむさし村山	東京都武蔵村山市	3月20日	180	83
イオンモール水戸内原	茨城県水戸市	3月21日	200	29
イオンモール東浦	愛知県知多郡東浦町	4月19日	170	122
イオンモール名取	宮城県名取市	4月19日	240	121
イオンモール広島府中	広島県安芸郡府中町	4月19日	280	12
イオンモール成田	千葉県成田市	4月20日	170	88

モール名称	所在地	リニューアル日	専門店数	リニューアル専門店数
イオンモール春日部	埼玉県春日部市	4月20日	160	26
イオンモール沖縄ライカム	沖縄県中頭郡北中城村	4月26日	240	18
イオンモール神戸北	兵庫県神戸市	4月26日	160	23
イオンモールつくば	茨城県つくば市	4月26日	200	32
イオンモール堺鉄砲町	大阪府堺市	4月27日	160	21

## 損益計算書（要約）

(単位:百万円)

連結（百万円）	2020年2月期 第1四半期	比率	2019年2月期 第1四半期	比率	増減率	前年増減額	前期比増減要因
営業収益	80,690	100.0%	76,759	100.0%	105.1%	+3,931	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本 新規4モール +1,247 百万円</li> <li>・日本 既存79モール +1,015 百万円</li> <li>・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +252 百万円</li> <li>・日本 その他 ▲13 百万円</li> <li>・海外 +1,428 百万円</li> </ul>
営業原価	58,996	73.1%	57,422	74.8%	102.7%	+1,574	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本 新規4モール +1,401 百万円</li> <li>・日本 既存79モール +499 百万円</li> <li>・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +280 百万円</li> <li>・日本 その他 ▲60 百万円</li> <li>・海外 ▲546 百万円</li> <li>(内、IFRS第16号影響額：▲1,331百万円)</li> </ul>
営業総利益	21,693	26.9%	19,336	25.2%	112.2%	+2,357	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本 新規4モール ▲154 百万円</li> <li>・日本 既存79モール +516 百万円</li> <li>・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) ▲27 百万円</li> <li>・日本 その他 +47 百万円</li> <li>・海外 +1,974 百万円</li> </ul>
販売費及び一般管理費	6,555	8.1%	6,682	8.7%	98.1%	▲126	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本 モール(OPA除く) ▲111 百万円</li> <li>・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +38 百万円</li> <li>・海外 ▲53 百万円</li> <li>(内、IFRS第16号影響額：▲4百万円)</li> </ul>
営業利益	15,137	18.8%	12,654	16.5%	119.6%	+2,483	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IFRS第16号影響額 +1,335 百万円</li> </ul>
営業外収益	720	0.9%	818	1.0%	88.0%	▲97	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金収入 ▲93 百万円</li> <li>・テナント受取退店違約金 +64 百万円</li> <li>・受取利息 +33 百万円</li> <li>・デリバティブ評価益 ▲123 百万円</li> </ul>
営業外費用	2,995	3.7%	1,239	1.6%	241.7%	+1,756	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社債発行費用 ▲23 百万円</li> <li>・支払利息 +1,717 百万円</li> <li>(内、IFRS16号影響額：+1,629百万円)</li> <li>・為替差損 ▲92 百万円</li> <li>・デリバティブ評価損 +77 百万円</li> </ul>
経常利益	12,862	15.9%	12,233	15.9%	105.1%	+628	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IFRS第16号影響額 ▲294 百万円</li> </ul>
特別利益	2	0.0%	0	0.0%	400.1%	+1	
特別損失	347	0.4%	320	0.4%	108.5%	+27	
税金等調整前四半期純利益	12,517	15.5%	11,913	15.5%	105.1%	+603	
法人税等	4,416	5.5%	4,090	5.3%	108.0%	+325	
四半期純利益	8,100	10.0%	7,822	10.2%	103.5%	+277	
非支配株主に帰属する 四半期純利益または四半期純損失	109	0.1%	▲74	▲0.1%	-	+183	
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,991	9.9%	7,897	10.3%	101.2%	+93	

※日本 新規4モール(2018年度オープン4モール)

貸借対照表 (要約)

(単位:百万円)

連結 (百万円)	2020年2月期 第1四半期	2019年2月期	前期末比 増減額	主な増減要因
現金及び預金	54,053	56,823	▲ 2,770	
関係会社預け金	9,300	-	9,300	・イオングループ余資運用
その他	49,027	45,768	3,259	
流動資産	112,381	102,592	9,788	
有形固定資産	1,096,883	940,593	156,290	・有形固定資産の取得 +32,962 百万円 ・減価償却費 ▲14,251 百万円 ・使用権資産 +131,408 百万円 (内、IFRS第16号影響額: +93,266百万円) (内、「投資その他の資産」から科目変更: +38,142百万円)
無形固定資産	3,535	3,638	▲ 102	
投資その他の資産	117,257	156,387	▲ 39,129	・差入保証金 ▲1,591 百万円 ・土地使用権 (有形固定資産へ振替) ▲37,619 百万円
固定資産	1,217,677	1,100,618	117,058	
資産	1,330,058	1,203,211	126,847	
未払法人税	4,438	7,879	▲ 3,440	
専門店預り金	53,872	41,931	11,940	
設備未払金	46,329	47,439	▲ 1,110	
その他	77,436	89,673	▲ 12,236	・営業未払金 ▲10,899 百万円 (内、IFRS第16号適用による未払賃料取崩: ▲12,204百万円) ・1年内返済予定のリース債務 (IFRS第16号影響額) +11,856 百万円 ・コマース・ペーパー ▲6,000 百万円 ・1年内返済予定の長期借入金 ▲3,893 百万円
流動負債	182,077	186,923	▲ 4,846	
固定負債	759,070	622,228	136,842	・社債 +30,000 百万円 ・長期借入金 ▲1,947 百万円 ・預り保証金 +920 百万円 ・リース債務 +107,607 百万円 (内、IFRS第16号影響額: 107,613百万円)
負債	941,147	809,151	131,995	
純資産	388,911	394,059	▲ 5,148	・為替換算調整勘定 +4,344 百万円 ・利益剰余金 (IFRS第16号影響額) ▲12,985 百万円

自己資本	378,415	383,393	▲ 4,977
自己資本比率	28.5%	31.9%	▲3.4%
有利子負債	644,727	507,104	137,623
有利子負債比率	48.5%	42.1%	6.4%
デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.7	1.3	0.4
ネット・デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.5	1.1	0.4

【参考】

自己資本比率	31.7%	31.9%	▲0.2%
有利子負債比率	43.4%	42.1%	1.3%
デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.3	1.3	0.0
ネット・デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.2	1.1	0.1

※IFRS第16号適用の影響を控除。

【有利子負債増減】

(単位:百万円)

	2020年2月期 第1四半期	2019年2月期	前期末比 増減額
コマース・ペーパー	0	6,000	▲ 6,000
1年内償還予定の社債	15,000	15,000	-
1年内返済予定の長期借入金	20,122	24,015	▲ 3,893
社債	265,000	235,000	30,000
長期借入金	225,012	226,960	▲ 1,947
小計	525,134	506,975	18,159
リース債務	119,592	128	119,463
総計	644,727	507,104	137,623

## キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位:百万円)

連結 (百万円)	2020年2月期 第1四半期	2019年2月期 第1四半期	前年増減額	主な項目
営業活動による キャッシュ・フロー	28,537	25,152	3,385	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 税金等調整前四半期純利益 12,517 百万円 (内、IFRS第16号影響額：▲294百万円)</li> <li>・ 減価償却費 14,251 百万円 (内、IFRS第16号影響額：3,147百万円)</li> <li>・ 専門店売上預り金 11,864 百万円</li> <li>・ 法人税等の支払額 ▲6,807 百万円</li> </ul>
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 36,234	▲ 51,038	14,804	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有形固定資産の取得 ▲34,999 百万円</li> <li>・ 長期前払費用の取得 ▲1,025 百万円</li> <li>・ 預り保証金の増加(NET) 755 百万円</li> </ul> <p style="text-align: right;">} ※設備投資 36,025百万円</p>
財務活動による キャッシュ・フロー	11,510	35,233	▲ 23,722	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期借入金およびCPの増減 ▲6,000 百万円</li> <li>・ 長期借入金の返済による支出 ▲5,957 百万円</li> <li>・ 社債発行による収入 30,000 百万円</li> <li>・ 配当金の支払額 ▲4,321 百万円</li> <li>・ リース債務の返済による支出 (IFRS第16号影響額) ▲2,554 百万円</li> </ul>
現金及び現金同等物 期末残高	60,277	62,097	▲ 1,819	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IFRS第16号適用の影響額 - 百万円</li> </ul>

# 今後の取り組み

海外事業 成長モデル

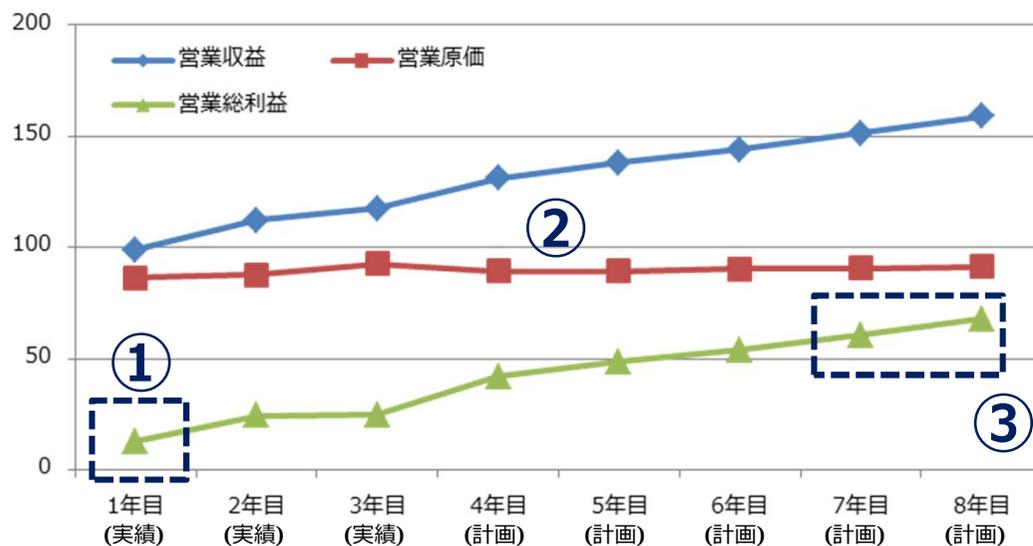
◆海外既存モール 2018年度実績

単位：百万円

		海外19モール	
		前期差	前期比
営業収益		33,718	+2,561 108.2%
1モール平均		1,775	+135 -
営業総利益		5,685	+2,638 186.6%
1モール平均		299	+139 -

イオンモール蘇州新区 2016年1月オープン

(単位：百万円)

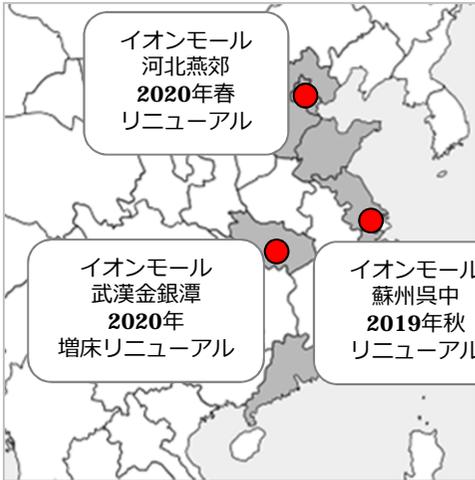


- ①蘇州市3号店で、エリアにおけるブランディング向上によりオープン時のリーシング条件が改善された効果で、トップラインが計画を上回って推移。**初年度より黒字化。**
- ②営業原価の大部分は不動産コストであるため、**コストはほぼ一定で推移。** 営業収益は売上増加に伴う歩合家賃収入と賃料改定で伸長するため、**数年程度で黒字化見込み。**
- ③専門店契約満了となる3年目以降も、活性化を行うことで更なる利益改善が見込まれ、**7～8年目には日本のモールと同水準の利益計上の見込み。**

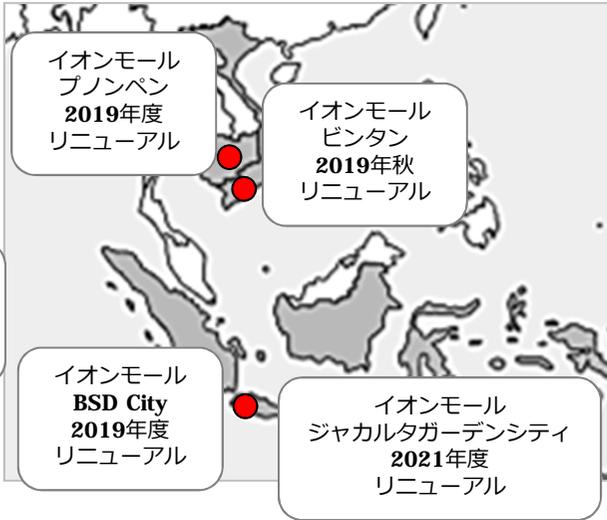
海外事業 既存モールリニューアル

◆海外モール 今後のリニューアル予定

<中国>



<アセアン>



イオンモール タンフーセラドン

2019年6月28日 増床リニューアルオープン

オープン：2014年1月  
敷地面積：70,000㎡ (+35,000㎡) 総賃貸面積：84,000㎡ (+37,000㎡)  
専門店数：200店舗 (+80店舗) 駐車台数：バイク 10,000台 (+6,000台)  
車 2,000台 (+1,500台)



◆海外におけるイオンモールの強み

①モータリゼーションに対応した大規模駐車場

②ディスティネーションに対応する売り場編集力

③エンターテインメント強化によるコト消費対応

④集客力あるイベント開催

⑤快適・安全・安心な施設の追求



国内事業 既存モール活性化

◆3カ年活性化計画

	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	2019年度 (計画)	3カ年計
増床	2 モール	2 モール	4 モール	8 モール
リニューアル	12 モール	6 モール	10 モール	28 モール

※イオンリテール(株)の大型商業施設は除く。

イオンモール高岡 2019年秋 増床棟オープン予定

オープン : 2002年9月  
敷地面積 : 209,000㎡ (+64,000㎡) 総賃貸面積 : 79,000㎡ (+17,000㎡)  
駐車台数 : 4,700台 (+1,100台) 専門店数 : 200店舗 (+70店舗)



◆新規・増床モール数推移

建設費が高止まりしており、新規出店は空白エリアへの出店に厳選し、より投資効率の高い増床リニューアルに経営資源を投入



◆活性化の考え方

イオンモールのモール年齢10.9年(平均)  
活性化によりさらに価値を向上

既存モールの大規模活性化(リニューアル)を推進し、ショッピングモールの魅力・鮮度をアップし、収益力強化を図る

活性化

=

「+a」となる  
ニーズの創出

新たな顧客層を取り込む  
カテゴリの創出

新たなニーズを生む  
カテゴリの創出

国内事業 消費税増税への対応

7月

旅行・  
レジャー  
準備



8月

帰省  
ニーズ



9月

駆け込み需要  
(日用・消耗品)



10月

消費税  
増税

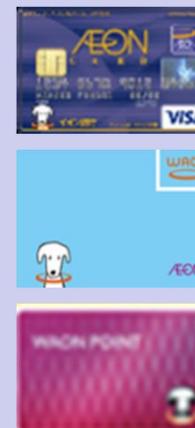
駆け込み需要  
(高単価品)



お客さまニーズに  
対応した販促企画  
の実施

+

イオングループの  
キャッシュレス  
インフラを活用した  
施策の推進



## 日本におけるインバウンドマーケット状況

### <2018年度>

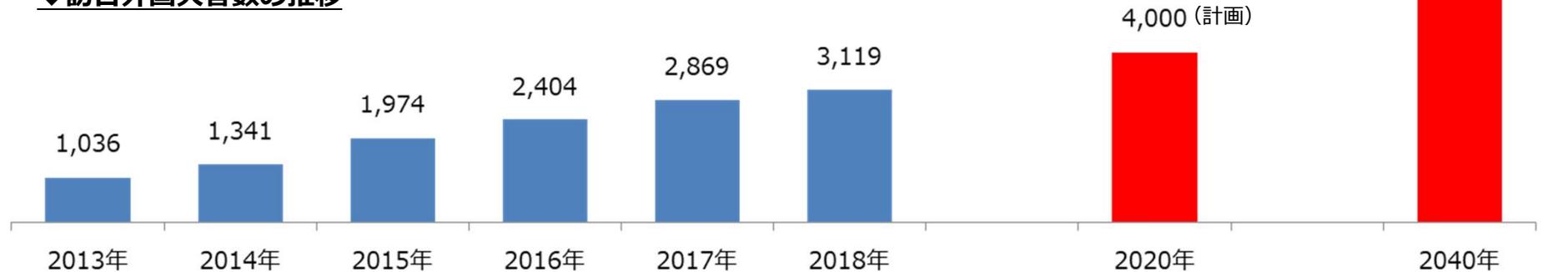
2018年の訪日外国人客数は約3,119万人、昨比108.7%  
4月に1,000万人、8月には2,000万人を過去最速で突破。

### <2019年度>

4月は292万人と単月の過去最高記録を更新。  
過去最高を記録した昨年を上回るペースで伸長。

(単位：万人)

#### ◆訪日外国人客数の推移



#### ◆2019年5月時点 (累計) の 主要国別訪日外国人客数

	2018年 1-5月	構成比	2019年 1-5月	構成比	前期比
韓国	3,410,208	25.8%	3,250,800	23.6%	-4.7%
中国	3,295,534	25.0%	3,651,800	26.6%	10.8%
台湾	2,048,869	15.5%	2,019,800	14.7%	-1.4%
香港	905,088	6.9%	888,800	6.5%	-1.8%
タイ	533,023	4.0%	620,600	4.5%	16.4%
ベトナム	164,775	1.2%	217,800	1.6%	32.2%
アメリカ	612,393	4.6%	699,600	5.1%	14.2%
合計	13,194,432	100.0%	13,753,600	100.0%	4.2%

国内事業 インバウンドマーケットへの対応

イオンモール成田 2019年4月20日リニューアルオープン

# リニューアル実施にあたり、インバウンド向け機能を強化

## ① 来館時受け入れ体制の整備

免税カウンター、ツーリストインフォメーション  
および団体バス乗降場を移設。



## ② 多言語表示

館内誘導サイン、ピクトグラム、ショッピングガイド、  
デジタルサイネージ、飲食店舗ファサード・メニュー、  
ラッピングバス、デジタルインフォメーション※7月下旬導入



## ③ 環境整備・新規サービスの導入

訪日外国人にとっての利便性を高めるための  
設備・サービスを新たに導入



翻訳ツール

外貨両替機

SIM自販機

## ④ 訪日外国人向けフォトスポット設置・コンテンツ配信

和み広場・うなりくん広場・Narita国際通り・さくら広場



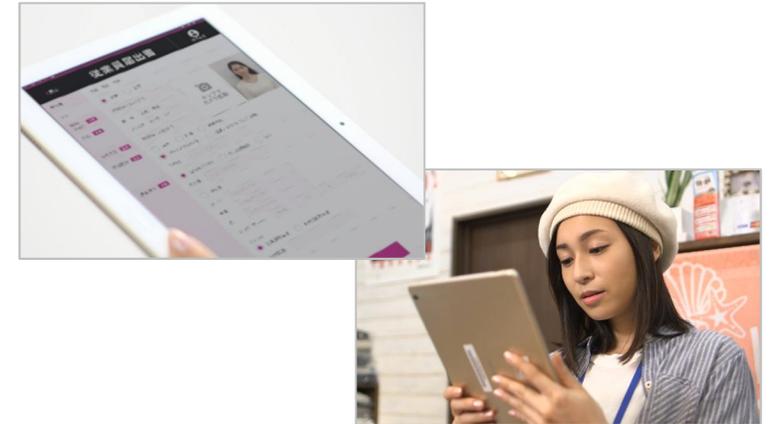
インバウンド需要増が見込まれる国内既存モールへ水平展開

国内事業 デジタル化の推進

デジタルを活用した新しい買い物体験



専門店従業員向け「コミュニケーションタブレット」導入



**<目的>**  
・省力化・省人化  
・ペーパーレス化

**<主な機能>**  
・各種申請の電子化  
・資料の電子配布  
・各種アンケート  
・連絡（メッセージ）  
・翻訳アプリ 等

デジタル化の進展

お客さま利便性の向上

ショッピングモールを楽しむ時間の増加  
(滞在時間増加・買い回り向上)

専門店向けESの向上

有力専門店からの高い支持  
(リレーション強化)

## ハピネスモール

AEON MALLは、  
ハピネスモールをめざして。

イオンモールは、お客さまにとっての「しあわせ」が生まれる場でありたい。  
地域の皆さまが「しあわせ」を感じる暮らしを、人生を送ることができるように。

日々のお買い物はもちろん、さまざまな取り組みを通じて、  
もっと「しあわせ」を感じられる場「ハピネスモール」をめざしていきます。

## 未来に向けた持続可能なまちづくり協定書締結について

社会福祉法人恩賜財団済生会とイオンモール株式会社は、双方が拠点をもつ地域のまちづくりに貢献することを目的として、相互連携協力のための協定を締結。第一弾として、イオンモールウォーキングをはじめとする“健康”をテーマにした取り組みをイオンモール高岡（富山県高岡市）にて実施。



### 【本協定の概要】

- (1) 健康づくり、生きがいづくりに関する取り組み
- (2) 地域住民の交流を促進する取り組み
- (3) 子ども、高齢者、障害者等の地域社会への参加に向けた取り組み
- (4) 共同イベント開催、情報発信に関する取り組み
- (5) 地域の環境に配慮した取り組み
- (6) 災害対策等安心して暮らせるまちづくりに関する取り組み
- (7) その他、目的を達成するために必要な相互の資源を活かした取り組み

### 【イオンモール高岡での取り組み概要】

- (1) 健康相談教室に関する取り組み
- (2) イオンモールウォーキングに関する取り組み
- (3) 子ども向け医療の仕事体験イベントに関する取り組み
- (4) 人間ドック受診者に関する取り組み
- (5) 病児・一時保育の広報に関する取り組み
- (6) 街角保健室に関する取り組み

# 2019年度 連結数値計画

## ◆国際財務報告基準IFRSの最新基準 IFRS第16号適用の影響

2019年度より海外各国は上記基準に基づき、IFRS第16号を適用します。  
影響額は下記の通りとなります。

### 【P/L影響額】

	影響額
営業収益	—
営業利益	+50 億円
経常利益	▲10 億円
親会社株主に帰属する当期純利益	▲10 億円

### 【B/S影響額】 ※2019年5月末現在

	影響額	勘定科目
資産	+932 億円	使用権資産 +932億円
負債	+1,047 億円	営業未払金 ▲122億円 リース債務 +1,194億円 リース債務返済(1Q) ▲25億円
純資産	▲114 億円	利益剰余金(移行時) ▲129億円 利益減少(1Q) ▲2億円
負債・純資産	+932 億円	

### ◆連結業績計画（2019年度）

	金額	前期比
営業収益	<b>3,260 億円</b>	<b>104.2 %</b>
営業利益	<b>620 億円</b>	<b>117.0 %</b>
経常利益	<b>540 億円</b>	<b>103.4 %</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>337 億円</b>	<b>100.5 %</b>

設備投資額	<b>1,700 億円</b>
減価償却費 ※	<b>520 億円</b>

※長期前払費用の償却を含む。  
同条件の2018年度実績は528億円。

当社は、2020年2月期の連結財務諸表から、在外連結子会社に対して国際財務報告基準「リース」（IFRS第16号）を適用するため、2020年2月期の連結業績予想は同基準に基づき作成しております。

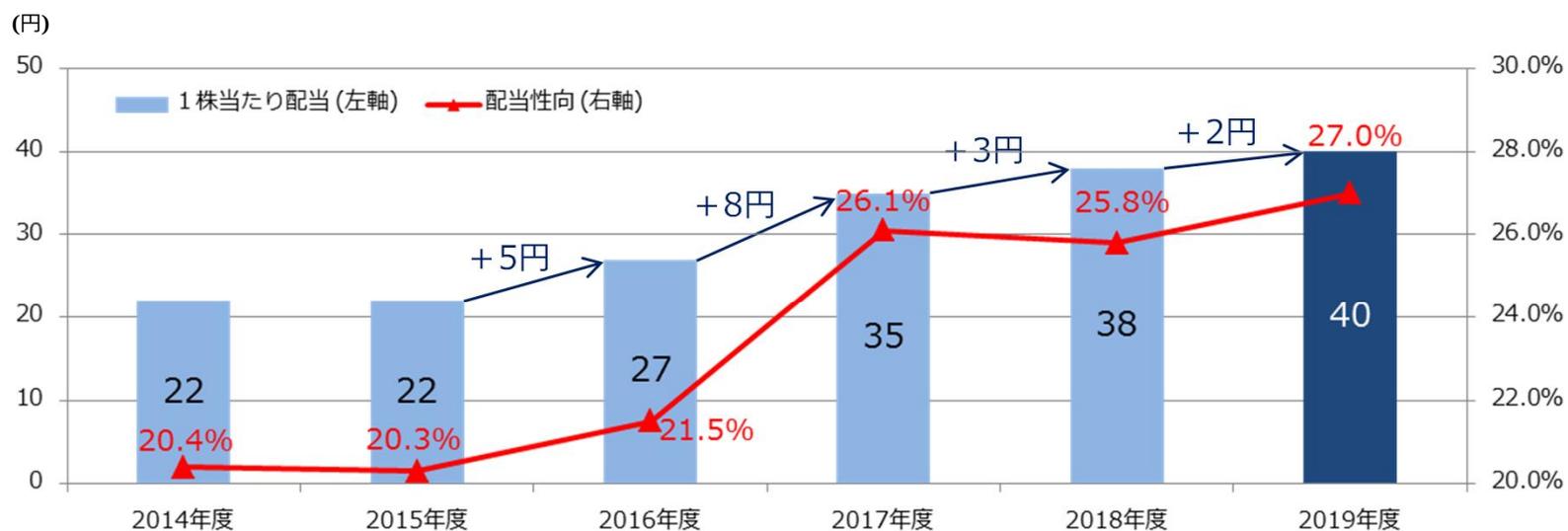
（ご参考）IFRS適用前基準の業績予想

	金額	前期比
営業収益	<b>3,260 億円</b>	<b>104.2 %</b>
営業利益	<b>570 億円</b>	<b>107.6 %</b>
経常利益	<b>550 億円</b>	<b>105.4 %</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>347 億円</b>	<b>103.5 %</b>

2019年度は1株当たり年間2円増配の40円、連結配当性向27.0%を計画。

◆株主還元

年度	1株当たり配当金			配当性向
	中間	期末	年間	
2017 (実績)	16.0 円	19.0 円	35.0 円	26.1 %
2018 (実績)	19.0 円	19.0 円	38.0 円	25.8 %
2019 (計画)	20.0 円	20.0 円	40.0 円	27.0 %



## 統合報告書2019

2019年6月7日発行



本年よりアニュアルレポートに代えて統合報告書を発行。

和文 <https://www.aeonmall.com/static/detail/integrated/>  
英文 [https://www.aeonmall.com/en/ir/i\\_report2019.html](https://www.aeonmall.com/en/ir/i_report2019.html)

## CSR/ESGレポート2019

2019年5月30日発行



CSRレポートもCSR/ESGレポートとしてリニューアル発行。

和文 <https://www.aeonmall.com/csr/>  
英文 <https://www.aeonmall.com/en/csr/index.html>

## 中長期の取り組みについて

和文 [https://ssl4.eir-parts.net/doc/8905/ir\\_material\\_for\\_fiscal\\_y5/67704/00.pdf](https://ssl4.eir-parts.net/doc/8905/ir_material_for_fiscal_y5/67704/00.pdf)  
英文 [https://ssl4.eir-parts.net/doc/8905/ir\\_material14/124278/00.pdf](https://ssl4.eir-parts.net/doc/8905/ir_material14/124278/00.pdf)

# 添付資料 (モールデータ)

ショッピングモール（国内）

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地／建物 所有	土地賃借／ 建物所有	土地／建物 賃借	PM受託
1	イオンモールつがる柏	1992年11月	40,000	2,600	90	◎			
2	イオンモール秋田	1993年9月	58,000	3,200	150	◎			
3	イオンモール富津	1993年9月	28,000	1,400	90			☆	
4	イオンモール下田	1995年4月	59,000	4,000	120	◎			
5	ショッピングモールフェスタ	1996年4月	32,000	3,800	90	◎			
6	イオンモール鈴鹿	1996年11月	70,000	4,200	180			☆	
7	イオンモール三光	1996年12月	40,000	2,500	70	◎			
8	イオンモール宇城	1997年11月	63,000	3,300	100			☆	
9	イオンモール倉敷	1999年9月	83,000	4,700	240			☆	
10	イオンモール成田	2000年3月	65,000	4,000	170			☆	
11	イオンモール岡崎	2000年9月	80,000	4,300	170		◎		
12	イオンモール川口前川	2000年11月	66,000	2,400	170			◎	
13	イオンモール高知	2000年12月	57,000	2,800	140			◎	
14	イオンモール新居浜	2001年6月	66,000	3,500	120		◎		
15	イオンモール東浦	2001年7月	75,000	4,600	170			☆	
16	イオンモール大和	2001年12月	35,000	1,900	90			☆	
17	イオンモール高岡	2002年9月	62,000	3,600	130		◎		
18	イオンモール伊丹	2002年10月	57,000	2,800	150			☆	
19	イオンモール盛岡	2003年8月	52,000	2,600	130			☆	
20	イオンモール太田	2003年12月	62,000	4,200	150			☆	
21	イオンモール京都五条	2004年3月	36,000	1,700	140			☆	
22	イオンモール広島府中	2004年3月	98,000	5,000	280	◎			
23	イオンモール橿原	2004年4月	80,000	5,000	230		◎		
24	イオンモール木曽川	2004年6月	66,000	4,400	170			◎	
25	イオンモール福岡	2004年6月	90,000	5,300	220			☆	
26	イオンモール浜松志都呂	2004年8月	65,000	3,500	160			☆	
27	イオンモール堺北花田	2004年10月	72,000	2,800	170			☆	
28	イオンモールりんくう泉南	2004年11月	76,000	4,300	170	◎			
29	イオンモール直方	2005年4月	58,000	3,400	140			☆	
30	イオンモール宮崎	2005年5月	84,000	4,300	250		◎		

☆流動化案件

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
31	イオンモール熊本	2005年10月	84,000	5,000	200			☆	
32	イオンモール水戸内原	2005年11月	78,000	4,100	200			☆	
33	イオンモール千葉ニュータウン	2006年 4月	79,000	4,000	180			☆	
34	イオンモール高崎	2006年10月	59,000	3,700	170			☆	
35	イオンモールむさし村山	2006年11月	78,000	4,000	180			☆	
36	イオンモール鶴見緑地	2006年11月	54,000	2,200	160			☆	
37	イオンモール神戸北	2006年11月	55,000	4,000	160			☆	
38	イオンモール名取	2007年 2月	80,000	4,500	240		◎		
39	イオンモール羽生	2007年11月	75,000	5,000	210	◎			
40	イオンモール日の出	2007年11月	64,000	3,600	160		◎		
41	イオンレイクタウンKaze	2008年10月	61,000	2,300	230			◎	
42	イオンモール草津	2008年11月	78,000	4,500	190		◎		
43	イオンモール筑紫野	2008年12月	80,000	3,800	210		◎		
44	イオンモール都城駅前	2008年12月	28,000	1,700	100			☆	
45	mozo wondercity	2009年 4月	101,000	5,000	230				◎
46	イオンモール広島祇園	2009年 4月	50,000	2,800	130		◎		
47	イオンモール新瑞橋	2010年 3月	38,000	1,700	120			☆	
48	イオンモール大和郡山	2010年 3月	67,000	4,100	170			☆	
49	イオンモールKYOTO	2010年 6月	51,000	1,100	130			☆	
50	イオンモール甲府昭和	2011年 3月	70,000	3,500	180			☆	
51	イオンモール大牟田	2011年 3月	57,000	4,800	130	◎			
52	イオンレイクタウンアウトレット	2011年 4月	23,000	1,100	130		◎		
53	広島段原ショッピングセンター	2011年 9月	24,000	800	60			◎	
54	イオンモール福津	2012年 4月	63,000	3,500	180			☆	
55	イオンモールつくば	2013年 3月	64,000	4,000	200			☆	
56	イオンモール春日部	2013年 3月	56,000	2,900	160			☆	
57	神戸ハーバーランドumie(ウミエ)	2013年 4月	85,000	3,000	230				◎
58	イオンモール東員	2013年11月	58,000	3,500	155		◎		
59	イオンモール幕張新都心	2013年12月	128,000	7,300	360		◎		
60	イオンモール天童	2014年 3月	47,000	3,000	130		◎		

☆流動化案件

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
61	イオンモール和歌山	2014年 3月	69,000	3,500	210			☆	
62	イオンモール名古屋茶屋	2014年 6月	75,000	4,100	200		◎		
63	イオンモール京都桂川	2014年10月	77,000	3,100	220			☆	
64	イオンモール木更津	2014年10月	84,000	4,000	160		◎		
65	イオンモール多摩平の森	2014年11月	24,000	1,000	130			☆	
66	イオンモール岡山	2014年12月	92,000	2,500	350			☆	
67	イオンモール旭川駅前	2015年 3月	29,000	900	130			◎	
68	イオンモール沖縄ライカム	2015年 4月	86,000	4,000	240		◎		
69	イオンモール四條畷	2015年10月	75,000	4,100	200		◎		
70	イオンモール常滑	2015年12月	87,000	4,000	180		◎		
71	イオンモール堺鉄砲町	2016年 3月	56,000	2,600	160		◎		
72	イオンモール今治新都市	2016年 4月	54,000	2,900	120	◎			
73	イオンモール長久手	2016年12月	59,000	2,600	200		◎		
74	カテプリ	2016年12月	13,000	1,800	60			◎	
75	イオンモール新小松	2017年 3月	63,000	3,400	170			☆	
76	イオンSENRITO専門館	2017年 4月	9,000	400	35			◎	
77	イオンモール徳島	2017年 4月	50,000	3,100	160		◎		
78	イオンモール神戸南	2017年 9月	39,000	1,400	130		◎		
79	イオンモール松本	2017年 9月	49,000	2,300	170	◎			
80	イオンモール座間	2018年 3月	50,000	2,500	160		◎		
81	THE OUTLETS HIROSHIMA	2018年 4月	53,000	4,000	200	◎			
82	イオンモールいわき小名浜	2018年 6月	50,000	1,300	130		◎		
83	イオンモール津南	2018年11月	60,000	3,400	170	◎			
国内 計			5,113,000	273,500	13,820	13	25	43	2

※上記以外にイオンリテール(株)の商業施設70施設(G L A 2,798,000㎡、専門店数8,100)の管理・運営を受託しております。

☆流動化案件

ショッピングモール (中国)

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
1	イオンモール北京国際商城 (中国)	2008年11月	54,000	3,000	120			◎	
2	イオンモール天津TEDA(中国)	2010年10月	55,000	2,500	130			◎	
3	イオンモール天津中北(中国)	2012年4月	65,000	3,900	150			◎	
4	イオンモール天津梅江(中国)	2014年1月	62,000	2,400	170			◎	
5	イオンモール蘇州吳中(中国)	2014年4月	75,000	3,100	190			◎	
6	イオンモール武漢金銀潭(中国)	2014年12月	74,000	3,000	200			◎	
7	イオンモール蘇州園区湖東(中国)	2015年5月	75,000	3,000	200	◎			
8	イオンモール北京豊台(中国)	2015年9月	62,000	2,500	180			◎	
9	イオンモール杭州良渚新城(中国)	2015年11月	68,000	2,500	180	◎			
10	イオンモール武漢經開(中国)	2015年12月	101,000	4,000	300	◎			
11	イオンモール広州番禺広場(中国)	2015年12月	64,000	1,600	170			◎	
12	イオンモール蘇州新区(中国)	2016年1月	74,000	3,300	280			◎	
13	イオンモール河北燕郊(中国)	2016年11月	70,000	2,700	200			◎	
14	イオンモール天津津南(中国)	2017年10月	70,000	2,600	210			◎	
15	イオンモール南通星湖(中国)	2017年12月	77,000	3,000	280			◎	
16	イオンモール武漢金橋(中国)	2017年12月	55,000	1,700	190			◎	
17	イオンモール佛山大瀝(中国)	2017年12月	69,000	2,700	240			◎	
18	イオンモール煙台金沙灘(中国)	2018年5月	72,000	2,700	220	◎			
19	イオンモール広州金沙(中国)	2018年11月	65,000	3,000	170			◎	

ショッピングモール (アセアン)

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
1	イオンモール タンフーセラドン(ベトナム)	2014年1月	47,000	500	120				◎
2	イオンモール ビンズオンキャナリー(ベトナム)	2014年11月	49,000	1,000	150			◎	
3	イオンモール ロンビエン(ベトナム)	2015年10月	72,000	1,000	180	◎			
4	イオンモール ビンタン (ベトナム)	2016年7月	60,000	1,500	160			◎	
5	イオンモール プノンペン(カンボジア)	2014年6月	68,000	2,300	190	◎			
6	イオンモール センソック シティ(カンボジア)	2018年5月	85,000	2,300	200	◎			
7	イオンモールBSD CITY(インドネシア)	2015年5月	77,000	2,100	280	◎			
8	イオンモール ジャカルタ ガーデンシティ (インドネシア)	2017年9月	63,000	3,000	220	◎			
海外 計			1,828,000	66,900	5,280	9	0	17	1
合 計			6,941,000	340,400	19,100	22	25	60	3

※2019年5月31日現在

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	専門店舗数
1	三宮ビブレ	1969年11月	6,100	34
2	天神ビブレ	1976年11月	9,900	74
3	横浜ビブレ	1978年10月	18,300	137
4	仙台フォーラス	1984年11月	14,500	105
5	心斎橋オーパ	1994年11月	10,500	135
	オーパきれい館	1998年 8月	2,300	心斎橋オーパに含む
6	北大路ビブレ	1995年 3月	22,000	92
7	湘南藤沢オーパ	1996年 3月	8,800	65
8	キャナルシティオーパ	1996年 4月	13,300	124
9	明石ビブレ	1997年10月	16,400	70
10	新百合丘オーパ	1997年11月	12,100	98
11	河原町オーパ	1998年11月	9,700	101
12	聖蹟桜ヶ丘オーパ	1999年 9月	16,000	57
13	ワールドポーターズビブレ	1999年 9月	18,100	93
14	金沢フォーラス	2006年11月	26,100	197
15	ビブレジーンレイクタウン	2008年 9月	2,900	22
16	名古屋ワンダーシティビブレ	2009年 4月	-	-
17	梅田オーパ	2013年 4月	2,200	19
18	三宮オーパ2	2017年 2月	11,700	50
19	水戸オーパ	2017年 3月	12,100	61
20	秋田オーパ	2017年10月	11,500	60
21	高崎オーパ	2017年10月	25,600	160
22	那覇オーパ	2018年10月	5,200	50
23	八王子オーパ	2018年11月	6,200	40
都市型ショッピングセンター 計			281,500	1,844

※名古屋ワンダーシティビブレは2019年4月15日に一旦、閉店しました。

※2019年5月31日現在